

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500738		
法人名	株式会社ライツベース		
事業所名	グループホームななみの杜	ユニット名	ひいろ
所在地	宮城県仙台市泉区市名坂字万吉前13-1		
自己評価作成日	令和5年8月27日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清山会グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を意識しながら、日々関わりを行っています。ご自分の想いや考えなどを相手に伝える事が難しいご利用者もおられるので、ご家族へご本人の状況をその都度お伝えし、ご家族からも意見を伺うように心掛けて関わりを行っています。現在はコロナ禍の為、大きな行事等は実施できていませんが、日常の家庭的な事を職員と一緒にしたり、季節を味わえる機会をできる限り設けたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄泉中央駅から東に約1Km、マンションやアパートが建ち並ぶ住宅地にある。すぐ北側が公園になっており、騒音の少ない静かな環境にある。職員は、グループ理念や社是を基に今年度は事業所目標を「明るく、楽しく、自分らしい笑顔あふれる毎日」と定め職員間で共有している。笑いの絶えない毎日を過ごせるよう努めている。コロナ禍ではあるが、季節を感じられる芋煮会など、行事を開催し、入居者の笑顔を引き出している。目標達成計画に掲げた「運営推進会議メンバーから意見や感想を得る」は、返信を求める書面はあったがメンバーからの意見は少なく、継続としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームななみの杜 )「ユニット名 ひいろ」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	面談時やミーティング時にグループの理念、社是を含めた話し合いを行っています。特にユニットリーダーには意識して貰うように都度伝えていくほか、自分なりにどう考えているかなどのお話を聞く機会も設けています。	グループ理念と社是を基に事業所目標を作成し、ホール等に掲示している。職員は目標を念頭に、入居者が今どうしたいのかを考え、一人ひとりに寄り添い、笑顔を引き出すケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの流行状況が収まっていたが職員の感染もあり、運営推進会議は開催せず、資料を郵送し書面での報告を実施している状況。また、散歩の際に近所の公園のゴミ拾いなどを実施しています。	市民センター便りで地域情報を入手している。天気の良い日はホーム周辺や近所の公園に散歩に行き、出会う人達と挨拶を交し、ゴミがあれば拾うようにしている。地域の方が畑の手入れや除草の手伝いをしてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センター、民生委員の方へは運営推進会議の資料を郵送しています。コロナの流行が落ち着いた時には、事業所内で会議を開催し、再度参加して頂きたいと考えております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、市民センター、民生委員の方へ資料を郵送しています。現在はコロナウイルス対策について、どのように対応を行っているか等を資料に載せております。	会議は書面開催になっている。市民センター職員や地域包括センター職員、民生委員、家族代表に「コロナ関連」「生活の様子」「職員の異動」等を報告している。コロナ禍での励ましの言葉を貰っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議のメンバーとして協力を依頼しています。	介護保険の更新手続きや区分変更で担当者と連携している。生活保護者の家族を通して市へ相談をしている。研修会の案内はFAXで届き、ケアマネが参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠などはせず、外に行かれる場合は、職員と一緒に付き添って対応しています。「身体拘束を行わない」という考えのもと、委員会を実施したり、日々の関わり方を振り返りながら不適切ケアについて話し合う機会を設けるなど、職員の理解が深まるように取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3カ月毎に開催している。会議では前回の振り返りと実践状況、職員から寄せられたグレーゾーンケアについて分析と検討をしている。議事録を回覧し、職員に周知している。法人研修の内容を管理者がユニット毎に伝達している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を実施しています。面談時やミーティング時などに、日々の関わりの中での言葉遣いや接し方についても話しています。また、職員のストレスや悩みごとについても確認を行っています。	虐待は「どんな時に起こるか」を研修している。不適切なケアにならないよう職員が互いに注意している。対応に困っている職員がいる場合は管理者やリーダーが交代するなど一人に負担が掛からないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で、後見人制度を利用されている方はいない為、必要時は研修など実施していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書のコピーをお渡しし、内容を確認して頂いています。契約時は、ただ文章を読み上げるだけでなく、分かりやすい言葉で説明し、具体的な場面などを例に上げてお伝えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するほか、毎月、ご本人の様子を手紙でお伝えしています。コロナの感染者が増えた時に、ご家族からしばらくはデイサービス利用を中止した方が良かったか？といった相談があり、その後、一時利用を中止しました。ご家族の希望にて海外在住のご家族と月1~2回のZoom面会も実施しています。	入居者の生活消耗品や衣類交換等の連絡を取り合い、その都度対応している。古着やタオル等の提供申し出もあった。面会は家族からの要望もあり、時間制限を無くし、居室での面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションやミーティング時などに意見や疑問を拾っています。特にミーティングでは事前に業務に関する議題を決め、それについて全員から意見を貰う形を取っています。その意見をもとに、業務の流れなどを変更、決定しています。	職員の意見を受け、車椅子や掃除機、パソコンを買い替え、業務の効率化や職員の負担軽減に繋がった。入居者の安全の為、アームカバーやレッグカバーを採用した。資格取得の費用負担やシフト調整等の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日々の会話、面談時などに悩み、相談等を聞くようにしています。職場の環境についても、職員に意見を聞きながら、改善できるよう取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修のほか、法人内研修などへの参加の声かけなどを実施しています。新人職員には、はぐくみプログラムラムの活用や、実際に現場で一緒に動きながら、声かけの仕方や介護技術について伝達しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回、グループ内の事業所とZoom会議を実施しています。同じ立場での悩みや相談、各事業所の現状など、情報交換をしています。	グループ内の各事業所のコロナ対策や待機入居者の有無等を話し合い、参考となっている。薬を配達してくれる薬剤師とは変更内容や処方及び効果等を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に、ご本人、ご家族、関係職員などから生活歴などの情報を伺っています。その情報を職員間で共有し、入居後どんな関わり方をするかなど、イメージを持てるようにしています。また、ご家族の想いやご希望なども職員間で共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時や事業所見学時、電話等にて、ご家族の要望などを伺っています。また、入居後、連絡を入れる頻度の意向なども確認しながら、ご本人の様子をお伝えしたり、ご家族からも話しやすい雰囲気を作るように心掛け、相談や意見などをしやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報について、ご本人、ご家族に確認するだけでなく、現時点で利用しているサービス事業所の関係職員からも情報を頂いたりしながら、介護、看護など必要時は多職種で相談し、提案などを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境であることは大事にしています。生活の主体はご本人であることを意識して日々関わっています。同時に介助を必要とする割合が多い方も増えている現状もあり、ご家族とご本人の生活について確認したりしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の文章での連絡の他、必要時は電話で連絡を入れています。継続して良いことだけでなく、ご本人の現状を理解して頂いています。家族に会いたいと話す方には、家族に連絡を入れたり、海外在住のご家族とは定期的にZoom面会を実施しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ町内会の方が溜まった郵便物を届けてくれたりする方もいます。また、事業所の畑の手入れや除草作業もお手伝いして下さっております。	家族や海外在住の方と定期的に電話やZoom面会を実施している。2～3か月に1回来訪する理容師は、全員の名前を覚える関係になっている。入居者宅に溜まった郵便物を届けてくれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要時は席の配慮や、時に距離を保つてもらおう等会話だけでなく環境面での仲介も実施しています。新しいご利用者にも積極的に話しかけ、ご利用者同士で関係性作りをしている場面もよく見られています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族だけでなく、今後活用するサービス事業所の職員へも気軽に連絡して貰えるようお伝えしています。退居したご家族より、次の入所先が決まったが、ご本人の事はななみの杜の職員の方が分かっているので、何かあれば向こうの職員から直接連絡して貰っても良いか?という相談もあり対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を伺い、毎食屋にパンを提供している方がいます。お風呂の時間も、入浴される時間帯などを確認し、出来る限りご希望に沿えるようにしています。ご本人に確認することが難しい方の場合は、ご本人の表情を伺ったり、ご家族へ現状をお伝えし、相談しながら対応しています。	入居時に生活歴や食習慣、趣味等の聞き取りをしている。気持ちを伝えられる方は、食べたい物や入浴時間の希望等を聞いて、可能な限り添えるようにしている。困難な方は表情や反応を汲み取る等で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人、ご家族や関係者などから、できるだけ情報を聞き取るようにしています。普段の生活の中からもご本人の情報把握に務め、職員間で情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、連絡ノート、ミーティングなどを活用しています。状態に変化が見られた時は都度職員間で相談し、対応の仕方について検討し、対応しています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者に状態変化があった際、職員だけでなくご家族とも検討し、適切なサービスを提供しています。ご利用者全員について、職員で話し合いをした内容はモニタリング等にも活かしています。状態変化時等でプランを見直した際には、ご家族への変更内容の説明もわかりやすいよう丁寧に実施しています。	3ヵ月毎に職員から情報を収集し、計画作成担当者が作成している。状態に変化があった場合は随時見直しをしている。下肢筋力が弱くなった方には体操や歩行訓練を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録内容は、ご本人の言葉を載せるなど具体的に記録するよう意識しています。また、ケアプランに沿っての記録も出来るよう、常に最新のプランが確認出来るように工夫しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族へ面会の依頼のお願いしたり、ご本人の要望に出来るだけご家族にも協力頂けるようお願いしています。ご本人の状態変化に伴い、衣類の変更をしたいなどの場合もご家族へ理由をお伝えし持参して頂く等、ご本人の状況に合わせたサービスを提供できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターの方も運営推進会議のメンバーとして参加して頂いています。散歩時には、事業所の裏にある公園のゴミ拾いを行ったりもしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員が往診医を希望され、往診医とのお付き合いも長く続けています。定期的な状態報告を実施し、何かあれば随時ご家族にも連絡を入れる等、情報共有を行っています。	月1回及び月2回で2名の訪問医がおり、専門医以外は、ほぼ全員訪問医を受診している。通院は家族対応である。訪問看護師は週2回来訪し、健康管理を行っている。歯科医の往診もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護の訪問時に、全員の状態を報告しています。その時に、食事面や生活面での相談をし、看護師よりアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを用意し、提出しています。急な受診や救急搬送時には職員が同行し、対応したりもしています。入院となった場合には、病院の相談員と連絡を取って情報共有を行い、ご本人の状態について職員間で共有し、退院に向けて準備します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を実施し、その後、状態変化があった場合やターミナルの時期が来た場合には、再度、医師も踏まえて具体的に説明し、ご家族の意向を確認します。終末期には、ご本人の状態に合わせて必要時、法人内の多職種と連携し支援していきます。	看取りに関する指針が明文化され、入居時に説明している。ターミナル期の際には、再度医師を交えて具体的に説明し、同意書に署名を得ている。管理者が講師で看取りの研修年2回行っている。今年度1名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応マニュアルの研修を実施しています。その他、もちとろぞうさん、AEDの使用法の確認もしています。7月にはAEDの電源を入れ、動作確認を実施しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、水災害マニュアルの確認などを行っています。火災報知器の点検や非常食などの備蓄もしています。	地震火災想定を含み年2回避難訓練を実施している。新人職員に夜間想定教育を行った。成果や課題を得る為にも、夜間想定での実動避難訓練と2年に1回は消防署員の立会を得るよう努めてもらいたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手は自分よりも色々な経験をされてきた年長者である事を意識して関わるよう、面談時やミーティング時などに伝達しています。自分がされたらどう思うか？自分の家族だったらどう感じるか？なども考えて日々のケアにあたる事も都度伝達しています。	呼称は姓か名に「さん」付けである。全職員が居室に入る際のノックと声掛けを共有している。排泄の有無等、職員間の会話は入居者名を使わず居室番号で行なう等、羞恥心等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望のあった方へ毎日パンを提供したり、出来る限りご希望の時間帯に入浴できるよう対応したりしています。また、なるべくご本人の希望を聞き出せるように、工夫して声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご希望の入浴時間を確認したり、体操などの活動への参加の意思を確認したりしています。献立を考える時も、今の時期なら何が食べたいか？などご利用者の方々と相談したりもしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類だけでなく、髪の毛や髭、爪を整えたりする事も意識できるよう、管理者、ユニットリーダーが率先して伝達しています。また新人職員が入職した時には、そういった細かい所にもきちんと意識できるよう、必ず伝達しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る作業を職員と一緒に実施しています。ご利用者同士でも「今日は私がするから」「お母さんやって貰ってありがとね」「どれ私も手伝うから」など、お互いに声を掛け合っている姿も日常的に見られます。	献立は入居者の希望を入れ、職員が話し合って作成している。血液検査の結果から、栄養士・看護師の指導を受け乳製品を追加している。事業所の畑から収穫した野菜が食卓を彩る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節にあった旬の食材を献立を取り入れ、その方に合った量、形態で提供しています。水分摂取量が少ない人には、自室の冷蔵庫に好みの飲み物を入れて、毎朝摂取量の把握と、中身の入れ替えを実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施しています。歯ブラシだけでなく、スポンジや口臭予防にモンダミンを使用したり、その方に合わせた物品をご用意いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方でも日中はトイレを使用して排泄を行ったりしています。入居後すぐは尿量が多く大きめのパットを使用していました。その後トイレのタイミングが合うようになり、パットのサイズを小さくした方もいます。	殆どの方が自立している。日中は全介助の方も職員2人体制でトイレでの排泄に努めている。排泄チェック表や行動パターンを参考にし立ち上がる等のサインを見逃さず、声掛けを行い誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を献立に入れるほか、毎日牛乳を水分として提供しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望がある方には、その方の希望時間に合わせた入浴を実施しています。入浴剤の使用の有無等も確認しています。	週2回の入浴である。リフト浴設備があり重度の方も入浴可能である。入りたがらない方は、職員を変えたり日を変えるなど柔軟に対応している。入浴剤を選んだり、ラジカセで音楽を聞きながら楽しく入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身で休む時間、起きる時間を決めて生活されている方もいます。また、ご家族と相談して離床臥床時間を作っている方もいます。夜間帯に気持ちが落ち着かない時は、ゆっくりお話を伺う等して一緒に過ごしたりもしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服中の薬については、すぐ確認できるよう日々の記録ファイルに閉じています。薬の変更があった場合も、内容を記録し、申し送り職員が情報共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりに出来る事をお願いしています。飲み物や食事などの好みも、出来るだけ対応しています。お誕生日の方には、当日何が食べたいか毎回確認してご希望のメニューを提供しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナウイルス感染対策のため、積極的に外出は出来ておりません。近所の公園への散歩程度などは実施しています。	天気の良い日はホーム裏手の公園を散歩している。食材の買い出しに入居者が同行した際、おやつや果物等を職員と選ぶ楽しみもある。畑で野菜を収穫するのも気分転換になっている。通院の帰りに外食して帰る方もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自己管理をしていた方もいましたが、ご本人の状況についてご家族にも相談し、今は職員管理となっています。もし、今後希望などがあれば、ご家族と相談しながら都度対応していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、ご家族への電話など実施しています。毎月ご家族に送るお便りの中に、ご本人も手紙やメッセージを入れて送ったりもしています。海外在住のご家族と月1～2回のZoom面会も実施したり、離れていてもご家族や大切な方とのつながりが継続して行えるように支援しています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節の飾りなどをご利用者と一緒に製作したりしています。現在は換気の為、窓を開けており、それに対して「寒い」「風が来ている」等とすぐに閉める方も実際していただいたりして対応しています。	コロナ対策でCO <sub>2</sub> モニター等を設置し、常時窓を少し開け換気をしている。空調の風が直接当たらないよう工夫している。ホールに一緒に作成した大きなカレンダーがあり、お月見の貼り絵が季節を感じさせている。椅子の他ソファがありテレビを見ながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで気の合う方と一緒にテレビを見ながら談笑されたりしています。お風呂中にラジオを聞いたり、音楽を流しながら歌を聞いたり、歌ったりもしています。ご利用者同士で居室に訪室して談話する事もあります。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染の物についてはご家族に協力依頼をしています。家族写真、誕生日の色紙などを壁に張ったり、好きなイラストを壁に沢山掲示したり、亡くなったご主人の遺骨を置いている方もいます。	備品はベッドや洗面台、クローゼットがあり一部トイレのある部屋もある。位牌や家族写真、誕生会のメッセージ入り色紙、自分が書いた絵等を飾っている。テレビを見たり、ラジオを聞いたり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などのドアの前にわかりやすい表示を付けています。お風呂は手すりの他、リフト機能がついていたり、安全に入れる仕組みになっています。またベッドの位置なども、その方の状態に合わせて変更して使用しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495500738		
法人名	株式会社ライツベース		
事業所名	グループホームななみの杜	ユニット名	みそら
所在地	宮城県仙台市泉区市名坂字万吉前13-1		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 27 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5 年 10 月 10 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

清山会グループの理念である「自立と共生の権利を尊ぶナラティブな関わり」を意識しながら、日々関わりを行っています。ご自分の時間を大事にする方も多いため、活動の時などもその都度ご本人に説明したり参加されるかの確認を行っています。断られる場合もありますが、参加されると皆さん楽しめる事も多いため、職員はすぐに諦めずに何度かお誘いしたり、ご本人に関心を持っていただけるような伝え方をするなどの工夫をしています。入浴時間や食事内容についても、ご本人にその都度確認し、できる限りご希望に対応できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地下鉄泉中央駅から東に約1Km、マンションやアパートが建ち並ぶ住宅地にある。すぐ北側が公園になっており、騒音の少ない静かな環境にある。職員は、グループ理念や社是を基に今年度は事業所目標を「明るく、楽しく、自分らしい笑顔あふれる毎日」と定め職員間で共有している。笑いの絶えない毎日を過ごせるよう努めている。コロナ禍ではあるが、季節を感じられる芋煮会など、行事を開催し、入居者の笑顔を引き出している。目標達成計画に掲げた「運営推進会議メンバーから意見や感想を得る」は、返信を求める書面はあったがメンバーからの意見は少なく、継続としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームななみの杜 )「ユニット名 みそら 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	面談時やミーティング時に法人の理念、社是を含めた話し合いを行っています。特にユニットリーダーには意識して貰うように都度伝えているほか、自分なりにどう考えているかなどのお話を聞く機会も設けています。	グループ理念と社是を基に事業所目標を作成し、ホール等に掲示している。職員は目標を念頭に、入居者が今どうしたいのかを考え、一人ひとりに寄り添い、笑顔を引き出すケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員のコロナ感染があり、運営推進会議は開催せず、資料を郵送し書面での報告を実施している状況です。また、散歩の際に近所の公園のゴミ拾いなどを実施しています。	市民センター便りで地域情報を入手している。天気の良い日はホーム周辺や近所の公園に散歩に行き、出会う人達と挨拶を交し、ゴミがあれば拾うようにしている。地域の方が畑の手入れや除草の手伝いをしてくれる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民センター、民生委員の方へは運営推進会議の資料を郵送しています。コロナの流行が落ち着いた時には、事業所内で会議を開催し、再度参加して頂きたいと考えております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域包括支援センター、市民センター、民生委員の方へ資料を郵送しています。現在はコロナウイルス対策について、どのように対応を行っているか等を資料に載せております。	会議は書面開催になっている。市民センター職員や地域包括センター職員、民生委員、家族代表に「コロナ関連」「生活の様子」「職員の異動」等を報告している。コロナ禍での励ましの言葉を貰っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議のメンバーとして協力を依頼しています。	介護保険の更新手続きや区分変更で担当者と連携している。生活保護者の家族を通して市へ相談をしている。研修会の案内はFAXで届き、ケアマネが参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠などはせず、外に行かれる場合は、職員と一緒に付き添って対応しています。「身体拘束を行わない」という考えのもと、委員会を実施したり、日々の関わり方を振り返りながら不適切ケアについて話し合う機会を設けるなど、職員の理解が深まるように取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を3カ月毎に開催している。会議では前回の振り返りと実践状況、職員から寄せられたグレーゾーンケアについて分析と検討をしている。議事録を回覧し、職員に周知している。法人研修の内容を管理者がユニット毎に伝達している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修を実施しています。面談時やミーティング時などに、日々の関わりの中での言葉遣いや接し方についても話をしています。また、職員のストレスや悩みごとについても確認を行っています。	虐待は「どんな時に起こるか」を研修している。不適切なケアにならないよう職員が互いに注意している。対応に困っている職員がいる場合は管理者やリーダーが交代するなど一人に負担が掛からないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で、後見人制度を利用している方はいない為、必要時は研修など実施していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に契約書のコピーをお渡しし、内容を確認して頂いています。契約時は、ただ文章を読み上げるだけでなく、分かりやすい言葉で説明し、具体的な場面などを例に上げてお伝えしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するほか、毎月、ご本人の様子を手紙でお伝えしています。ご家族からも実施して欲しいこと等の要望や意向を伺うようにして、対応しています。	入居者の生活消耗品や衣類交換等の連絡を取り合い、その都度対応している。古着やタオル等の提供申し出もあった。面会は家族からの要望もあり、時間制限を無くし、居室での面会を行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションやミーティング時に意見や疑問を拾っています。特にミーティングでは事前に業務に関する議題を決め、それについて全員から意見を貰う形を取っています。その意見をもとに、業務の流れなどを変更、決定しています。	職員の意見を受け、車椅子や掃除機、パソコンを買い替え、業務の効率化や職員の負担軽減に繋がった。入居者の安全の為、アームカバーやレッグカバーを採用した。資格取得の費用負担やシフト調整等の支援がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話、面談時などに悩み、相談等を聞くようにしています。職場の環境についても、職員に意見を聞きながら、改善できるよう取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修のほか、法人内研修などへの参加の声かけなどを実施しています。新人職員には、はぐくみプログラムラムの活用や、実際に現場で一緒に動きながら、声かけの仕方や介護技術について伝達しています。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回、グループ内の事業所とZoom会議を実施しています。同じ立場での悩みや相談、各事業所の現状など、情報交換をしています。	グループ内の各事業所のコロナ対策や待機入居者の有無等を話し合い、参考となっている。薬を配達してくれる薬剤師とは変更内容や処方及び効果等を話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査時に、ご本人、ご家族、関係職員などから生活歴などの情報を伺っています。その情報を職員間で共有し、入居後どんな関わり方をするかなど、イメージを持てるようにしています。また、ご家族の思いやご希望なども職員間で共有しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査時や事業所見学時、電話等にて、ご家族の要望などを伺っています。また、入居後、連絡を入れる頻度の意向なども確認しながら、ご本人の様子をお伝えしたり、ご家族からも話しやすい雰囲気を作るように心掛け、相談や意見などをしやすい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報について、ご本人、ご家族に確認するだけでなく、現時点で利用しているサービス事業所の関係職員からも情報を頂いたりしながら、介護、看護など必要時は多職種で相談し、提案などを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境であることは大事にしています。生活の主体はご本人であることを意識して日々関わっています。同時に介助を必要とする割合が多い方も増えている現状もあり、ご家族とご本人の生活について確認したりしています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の文章での連絡の他、必要時は電話で連絡を入れています。継続して良いことだけでなく、ご本人の現状を理解して頂いています。家族に会いたいと話す方には、家族に連絡を入れたり、Zoom面会を実施しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2～3か月に一度、絵手紙を送ってくれる方がいて、職員も手伝ってお返事を出したりしています。	家族や海外在住の方と定期的に電話やZoom面会を実施している。2～3か月に1回来訪する理容師は、全員の名前を覚える関係になっている。入居者宅に溜まった郵便物を届けてくれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あまりご自分から話さない方が多いので、ホールに集まった時など職員が会話を取り持ったりしています。活動などへ参加していると、徐々にお互いに会話をされたりしています。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時にはご家族だけでなく、今後活用するサービス事業所の職員へも気軽に連絡して貰えるようお伝えしています。退居したご家族より、次の入所先が決まったが、ご本人の事はななみの杜の職員の方が分かっているので、何かあれば向こうの職員から直接連絡して貰っても良いか?という相談もあり対応しています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好き嫌いの多い方がいますが、栄養面を考慮しながらその方の好みに合った食べ物を提供しています。お風呂の時間も、入浴される時間帯などを確認し、出来る限りご希望に沿えるようにしています。ご本人に確認することが難しい方は、ご本人の表情を伺ったり、ご家族へ現状をお伝えし、相談しながら対応しています。	入居時に生活歴や食習慣、趣味等の聞き取りをしている。気持ちを伝えられる方は、食べたい物や入浴時間の希望等を聞いて、可能な限り添えるようにしている。困難な方は表情や反応を汲み取る等で対応している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人、ご家族や関係者などから、できるだけ情報を聞き取るようにしています。普段の生活の中からもご本人の情報把握に務め、職員間で情報共有しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、連絡ノート、ミーティングなどを活用しています。状態に変化が見られた時は都度職員間で相談し、対応の仕方について検討し、対応しています。	
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活機能向上連携でOTさんに訪問して頂き本人さんの状態や意向を確認していただきながらリハビリのメニューを考え検討し、プラン変更をしています。ご家族にもプラン内容をご説明し、同意を頂きました。	3カ月毎に職員から情報を収集し、計画作成担当者が作成している。状態に変化があった場合は随時見直しをしている。下肢筋力が弱くなった方には体操や歩行訓練を取り入れている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録内容は、ご本人の言葉を載せるなど具体的に記録するよう意識しています。また、ケアプランに沿っての記録も出来るよう、常に最新のプランが確認出来るように工夫しています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族へ面会の依頼のお願いしたり、ご本人の要望に出来るだけご家族にも協力頂けるようお願いしています。ご本人の状態変化に伴い、衣類の変更をしたいなどの場合もご家族へ理由をお伝えし持参して頂く等、ご本人の状況に合わせたサービスを提供できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターの方も運営推進会議のメンバーとして参加して頂いています。散歩時には、事業所の裏にある公園のゴミ拾いを行ったりもしています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほぼ全員が往診医を希望され、往診医とのお付き合いも長く続けています。定期的な状態報告を実施し、何かあれば随時ご家族にも連絡を入れる等、情報共有を行っています。	月1回及び月2回で2名の訪問医がおり、専門医以外は、ほぼ全員訪問医を受診している。通院は家族対応である。訪問看護師は週2回来訪し、健康管理を行っている。歯科医の往診もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護の訪問時に、全員の状態を報告しています。その時に、食事面や生活面での相談をし、看護師よりアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを用意し、提出していません。急な受診や救急搬送時には職員が同行し、対応したりもしています。入院となった場合には、病院の相談員と連絡を取って情報共有を行い、ご本人の状態について職員間で共有し、退院に向けて準備します。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を実施し、その後、状態変化があった場合やターミナルの時期が来た場合には、再度、医師も踏まえて具体的に説明し、ご家族の意向を確認します。終末期には、ご本人の状態に合わせて必要時、法人内の多職種と連携し支援していきます。	看取りに関する指針が明文化され、入居時に説明している。ターミナル期の際には、再度医師を交えて具体的に説明し、同意書に署名を得ている。管理者が講師で看取りの研修年2回行っている。今年度1名の看取りがあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応マニュアルの研修を実施しています。その他、もちとろぞうさん、AEDの使用法の確認もしています。7月にはAEDの電源を入れ、動作確認を実施しています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、水災害マニュアルの確認などを行っています。火災報知器の点検や非常食などの備蓄もしています。	地震火災想定を含み年2回避難訓練を実施している。新人職員に夜間想定教育を行った。成果や課題を得る為にも、夜間想定での実動避難訓練と2年に1回は消防署員の立会を得るよう努めてもらいたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手は自分よりも色々な経験をされてきた年長者である事を意識して関わるよう、面談時やミーティング時などに伝達しています。自分がされたらどう思うか？自分の家族だったらどう感じるか？なども考えて日々のケアにあたる事も都度伝達しています。	呼称は姓か名に「さん」付けである。全職員が居室に入る際のノックと声掛けを共有している。排泄の有無等、職員間の会話は入居者名を使わず居室番号で行なう等、羞恥心等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂の時間は、出来る限りご本人に確認して実施しています。また、ホールの席替えを検討する時にも、それぞれご本人のご希望を伺いながら行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間を確認したり、体操などの活動への参加の意思を確認したりしています。献立を考える時も、今の時期なら何が食べたいか？など相談したりもしています。自分の部屋で過ごす時間が欲しい方も多いので、そういった時間も大事にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類だけでなく、髪の毛や髭、爪を整えたりする事も意識できるよう、管理者、ユニットリーダーが率先して伝達しています。また新人職員が入職した時には、そういった細かい所にもきちんと意識をして欲しい事を必ず伝達しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る作業と一緒に実施している方もいます。ご利用者同士も「今日は私がするから」「お母さんやって貰ってありがとね」「どれ私も手伝うから」など、お互いに声を掛け合っている姿も日常的に見られます。	献立は入居者の希望を入れ、職員が話し合って作成している。血液検査の結果から、栄養士・看護師の指導を受け乳製品を追加している。事業所の畑から収穫した野菜が食卓を彩る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節にあった献立を取り入れ、その方に合った量、形態で提供しています。水分摂取量が少ない人には、自室の冷蔵庫に好みの飲み物を入れて、毎朝摂取量の把握と、中身の入れ替えを実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施しています。部分入れ歯なども毎食後外していただきお手入れしていただけるよう対応しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の時間以外にも、落ち着かない時などトイレに誘っています。トイレに座らないと排泄されない事が多い方が骨折された際も、出来る限りトイレで座って排泄を促しています。	殆どの方が自立している。日中は全介助の方も職員2人体制でトイレでの排泄に努めている。排泄チェック表や行動パターンを参考にし立ち上がる等のサインを見逃さず、声掛けを行い誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を献立に入れるほか、毎日牛乳を水分として提供しています。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望がある人には、その方の希望時間に合わせた入浴時間を実施しています。希望に沿えない時はその理由を伝えています。入浴剤の有無も確認できる人には確認をしています。	週2回の入浴である。リフト浴設備があり重度の方も入浴可能である。入りたがらない方は、職員を変えたり日を変えるなど柔軟に対応している。入浴剤を選んだり、ラジカセで音楽を聞きながら楽しく入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身で休む時間、起きる時間を決めて生活されている方もいます。また、ご家族と相談して離床臥床時間を作っている方もいます。夜間帯に気持ちが落ち着かない時は、ゆっくりお話を伺う等して一緒に過ごしたりもしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在内服中の薬については、すぐ確認できるよう日々の記録ファイルに閉じています。薬の変更があった場合も、申し送り職員が共有できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりに出来る事をお願いしています。飲み物や食事などの好みも、出来るだけ対応しています。お誕生日の方には、当日何が食べたいか毎回確認してご希望のメニューを提供しています。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在もコロナウイルス感染対策のため、積極的には外出はしていません。近所の公園までの散歩程度が主になっています。コロナの感染者数が少ない時には、職員と一緒にしまむらに買い物に行ったりもしていました。	天気の良い日はホーム裏手の公園を散歩している。食材の買い出しに入居者が同行した際、おやつや果物等を職員と選ぶ楽しみもある。畑で野菜を収穫するのも気分転換になっている。通院の帰りに外食して帰る方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は自己管理をしていた方もいましたが、ご本人の状況についてご家族にも相談し、今は職員管理となっています。もし、今後希望などがあれば、ご家族と相談しながら都度対応していきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、ご家族への電話など実施しています。毎月ご家族に送るお便りの中に、ご本人も手紙やメッセージを入れて送ったりもしています。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節の飾りなどの一部をご利用者と一緒に作業して製作したりしています。現在は換気の為窓を開けており、それに対して「寒い」「風が来ている」等とすぐに閉める方も実際いますが、その都度説明をしたり、席を移動して貰ったり、必要時は席替えを実施したりしています。	コロナ対策でCO <sub>2</sub> モニター等を設置し、常時窓を少し開け換気をしている。空調の風が直接当たらないよう工夫している。ホールに一緒に作成した大きなカレンダーがあり、お月見の貼り絵が季節を感じさせている。椅子の他ソファがありテレビを見ながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファで気の合う方と一緒にテレビを見ながら談笑されたりしています。お風呂中にラジオを聞いたり、音楽を流しながら歌を聞いたり、歌ったりもしています。ご利用者同士で居室に訪室して談話する事もあります。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物についてはご家族に協力依頼をしています。家族写真、誕生日の色紙などを壁に張ったりしています。	備品はベッドや洗面台、クローゼットがあり一部トイレのある部屋もある。位牌や家族写真、誕生会のメッセージ入り色紙、自分が書いた絵等を飾っている。テレビを見たり、ラジオを聞いたり、思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂などのドアの前にわかりやすい表示を付けています。お風呂は手すりの他、リフト機能がついていたり、安全に入れる仕組みになっています。またベッドの位置なども、その方の状態に合わせて変更して使用しています。		